



# 関まさゆき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## ICTで豊かな暮らし実現

### 県、利活用戦略策定へ



県の施策について質問する関政幸県議

千葉市緑区選出の関政幸県議(3期)は6月定例県議会で一般質問に立ち、県の施策について森田知事ら県執行部に質しました。県はICT利活用戦略の策定を進めていますが、関議員は「最先端技術の実装が超少子高齢・人口減少社会が生じる様々な課題解決の力」として、その内容や策定スケジュールなどを聞きました。また、児童虐待防止の緊急対策としてICTを利用した児童相談所の業務体制強化について質問しました。関議員の質疑と県執行部の答弁を特集します。

### 6月定例県議会一般質問

**関議員** 世界が経験していない超少子高齢・人口減少社会に突入している我が国において、人口不足をはじめとする各分野が抱える様々な課題に対し、ロボット、人口知能、IoT、自走運転などの最先端技術を、一日でも早く社会に実装していくことが、抜本的な課題解決を導く重要な力の一つであると考えている。

**知事** 県では、様々な主体に共通する課題の解決に資する次の3つの取り組みを早期に実践したいと考えています。1つ目は、「庁内業務の効率化」として、端末での作業を自動化するRPAの実証実験に取り組み、市町村

の進捗が予想される中、本県の持続的な発展を実現するためには、利用者の視点に立ったICTの利活用とともに、行政や企業、研究機関等の様々な主体が積極的に取り組みを進めることが重要です。こうした理念のもと、本戦略では、目指すべき将来像として、「あらゆる人が暮らしやすい社会」、「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」、「生産性の高い産業に支えられる社会」の3点を位置付けています。

**関議員** 戦略の中で、「具体的な取り組み」として、「波及効果の高いプロジェクト」を3つ想定しているが、その内容の詳細と実施スケジュールはどうなっているのか。

**健康福祉部長** 本事業は、平成28年度から、介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化等を図ることを目的として、地域医療介護総合確保基金を活用して実施しており、平成30年度に1台あたりの補助限度額を、10万円から30万円に引き上げるなどの見直しをしたと

等を対象とした報告会を本年12月頃に開催します。2つ目は、「現場業務改革」として、児童相談所の現場における効果的な情報共有や進行管理の実現に向け、本年11月末までに、モバイル端末などを活用した業務手順の見直し案を検討します。

3つ目として、今後、教育分野においても、「ICTを利活用できる人材の育成」について検討を行ってまいります。これらのプロジェクトの成果を積極的に周知・共有することで、様々な分野における取り組みの創出につなげていきたいと考えています。

### 介護ロボット導入施設増加

**関議員** 厚生労働省の推計によると、2025年、本県の介護職員は、需要数10万9千785人に対し、供給数8万1千399人と、2万8千386人も不足するようだ。このような厳しい状況が近い将来見込まれる中、人口不足を補完するものとして、介護ロボットに大きな期待が寄せられている。

**関議員** 導入施設増加については、平成28年度は14施設、85台、29年度は14施設、92台でしたが、平成30年度は107施設、112台と増加しています。

また、機器の種類については、これまで、その多くが見守りシステムでしたが、平成30年度には、コミュニケーション型ロボットや、ベッドから車椅子に移乗する際、職員が装着するマッスルスーツなど、新たな種類の機器も導入されたところです。

**関まさゆき県議プロフィール**

略歴

- 1998年3月 県立千葉東高校卒
- 2002年3月 早稲田大学商学部卒
- 2005年10月 司法試験合格
- 2007年9月 司法研修所終了 弁護士登録
- 2011年4月 県議会議員に初当選(現在3選)

現職

- 県議会 農林水産常任委員会副委員長 がん対策審議会委員
- 自民党県連 青年局長、副幹事長、政務調査会副会長、児童虐待防止対策推進プロジェクトチーム副座長他・・・

●千葉市緑区と県政についてのご意見、ご要望をお聞かせください。

**関政幸** 県議事務所

千葉市緑区あすみが丘 3-51-10  
TEL.043-295-1011  
FAX.043-291-5526

# 児童相談所の業務 ICTで体制強化

## 児童虐待防止緊急対策で県

**関議員** 児童虐待防止対策についてうかがう。緊急対策のうち、児童相談所の体制強化の一つである業務の効率化や情報共有のためのICTの活用等として既に実施した内容の詳細とこの詳細を受けての現場からの感想はどうであったのか。また、今後どのように取り組むを進めていくのか。

**健康福祉部長** この度の緊急対策では、現在、児童相談所で運用しているシステムを、緊急的に改修し、タブレット端末で情報を閲覧・入力ができるようにするとともに、端末の配備台数を30台に増やしたところです。現場からは、出先や夜間などにシステムの閲覧が可能となり、業務の効率化が図られたほか、緊急対応時に子どもの状況や家庭内の様子を職場においても直ちに共有し、迅速に援助方針を決定できるようになったなどの声を聞いています。今後、現行のシステムを抜本的に見直すにあたっては、情報共有の迅速化のほか、ケースの特性に即した

進行管理や意思決定の支援など、現場のニーズを踏まえた情報の高度利用が可能となるよう、児童相談所や関係部局と十分協議しながら、取り組んでまいります。

**関議員** 児童相談所のICT化のプランの策定にあたっては、現場にとって使い勝手の良い、最高のICT実装につながるように、関係部署が使命感を持って、万全の準備と協力を尽力いただくよう要望する。



議場の自席で県執行部に要望する関議員

**関議員** いわゆるあおり運転とされる違反行為の取り締まり状況はどのようになっているのか。

**警察本部長** いわゆるあおり運転については様々な態様が考えられるところでありますが、例えば前の車との車間距離を極端に詰め、もつと速く走るよう挑発するようなケースでは車間距離不保持違反、また、後方の車が急ブレーキや急ハンドルで回避しなければならぬような進路変更について

は、進路変更禁止違反や追越し方法違反に該当するところとなると考えられるところでございます。平成30年中の違反取り締まり件数につきましては、車間距離不保持違反については726件で、前年比636件の増加、追越し方法違反は408件で、前年比393件の増加、進路変更禁止違反は30件で、前年比4件の増加となっております。また本年は、4月末現在、車間距離不保持違反の取り

締まり件数は251件で、前年同期比93件の増加、追越し方法違反については183件で、前年同期比161件の増加となっております。

**関議員** 他県の例のようにヘリコプターを活用した取り締まりを行い、あおり運転の抑止に繋げないか。

**警察本部長** 他府県にお

### あおり運転での違反 取り締まり大幅増

### 一時保護解除の児童に SOS発信システムを

後、どのような仕組みが有効か、他の自治体の取り組みなども参考に検討を進めてまいります。

**関議員** 今回の事件のような、学校を長期休暇中の家という密室空間で、子ども自らSOSを発信できる状況を作ってあげることは再発防止策としても大きな意味を持つと考えます。

これは、ICT活用の部分とも重なるところだが、様々な視点からの有効な手法の検討を要望する。

### 小・中学生の犯罪被害 昨年、1946件 県内

**健康福祉部長** 今回の野田市の事案に鑑み、一時保護解除後に家庭復帰した児童がSOSを容易に発信し、児童相談所が家庭の状況の変化を即時に把握できる仕組みを整備することは、虐待再発の早期発見に資するものと考えています。県としては、確実に児童の安全を確保できるよう、今

**関議員** 小中学生に対する暴行、傷害、わいせつ等の子どもたちの心身に危害を加える犯罪の発生状況はどのようになっているのか。

**警察本部長** 小中学生の心身に危害を加える犯罪の発生状況についてのご質問

ですが、平成30年中の小中学生が被害者となった犯罪の発生件数は1946件であり、このうち、身体等に対する犯罪である暴行は54件、傷害は56件、強姦性交等は18件、強姦わいせつは50件、公然わいせつは7件発生し

ております。これまでも、地域住民への犯罪情報等のタイムリーな発信、子供の見守りを行う多様な担い手の確保に努めるとともに、登下校時における学校関係者や防犯ボランティアと合同での見守り活動、移動交番車を活用するなどした警戒・パトロール活動等を推進しているほか、本年4月からは、子どもセーフティキーパーとして、警察職員OBを5警察署に配置し、登下校防犯プランに基づき活動の二層効果的な推進を図っております。

また、先日、神奈川県において、スクールバスを待つていた多数の児童等が殺傷される誠に痛ましい事件が発生したことなどを受け、登下校する児童等が集合する場所等も含め、通学路周辺の警戒活動を強化しているところであり、引き続き、学校や防犯ボランティア、地域住民等と連携し、児童等の安全確保に努めてまいります。